



きずな

チャレンジリーグGブロック

チャレンジリーグGブロックは、札幌澄川JFC、札幌南・石山、若葉ボンバーズ、TFCジュントス、山の手、FCリベルタ厚別、ベアフット北海道Bの8チームで戦いました。初戦の若葉対ジュントス戦、ジュントスの先制から若葉が同点とし、終了間際に若葉が勝越し点を挙げた試合から始まり、若葉ボンバーズが14戦全勝の勝ち点42で1位となりました。1位となった若葉ボンバーズは攻守に於いてバランスのとれたチームで、個々の能力も高い選手も多く、複数の得点者による84得点、守備に於いても組織的な堅守で11失点の得失点差73点と安定した戦績で、5節終了時点でブロック1位を決定しました。



リーグ戦本部席の状況

2位には8勝2分4敗勝点26の札幌澄川JFC、3位には7勝3分4敗勝点24のTFCジュント



石狩市スポーツ広場で2ピッチでの試合風景

以下勝点17のEAST GANBA、勝点16の山の手、勝ち点14のベアフット北海道B、勝ち点13の札幌南・石山、勝点8のFCリベルタ厚別の順位で全試合を終了した。全56試合中引分が8試合、1点差が12試合、2点差14試合、3点差9試合、4点以上13試合（内若葉戦が10試合）で、2～8位の中で拮抗した試合が多く、最終節で降格を懸けた戦いが見られた。また、全試合を通じ各チームの選手は非常にフェアプレーを意識したプレーが多く、警告を受けた選手も無く、各チーム共、日頃の指導の成果が十分発揮されていました。

このリーグは、事前に各チームに図り、5節のSSAP会場を除いた6日間を石狩市スポーツ広場（有料）で2ピッチにより午前中で行い、選手の待ち時間の短縮を図

り、更に、隣接する芝会場で、リーグ戦参加チームを優先とした若葉ボンバーズとの交流試合を、午前中のU-9、10とリーグ戦終了後のピッチでU-11を開催し、多くの選手が参加し延べ140試合を消化し、各チームからリーグ戦参加メンバー以外も充実した活動を行えたとの話がありました。会場の駐車台数も制限がなく多くの保護者の来場もあり、リーグ戦と合わせ交流試合でも多くのサポーターの選手への声援も多く見られました。運営面では、各チームの指導者及び保護者の皆様のご協力と天候にも恵まれ全日程を予定通り消化し、円滑にリーグ戦を運営することが出来ました。

リーグ戦終了後に、全選手と指導者が集まり終了式を行い、全選手による挨拶で解散しました。



リーグ戦終了式の様子